

林野庁長官賞

間伐・小径木で製品開発、販売は全国ネットで丸太から住宅まで、
木製品ならどんな注文にも応じる
高付加価値製品生産 新分野の開発に意欲

北秋田森林組合（組合長理事 藤島 直一）

□事業体の構成

組合員数 2870名

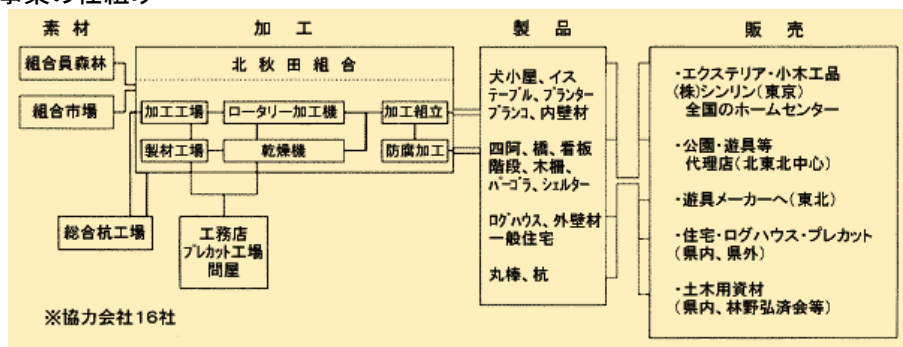
役員数 理事 34名 監事 10名

〒018-3454 秋田県北秋田郡鷹巣町脇神字左助岱27-2

TEL 0186-62-1664 FAX 0186-62-0650



□事業の仕組み



1 地域の概要

北秋田地方は秋田県北部の米代川流域のほぼ中央に位置し、古くから天然秋田スギの産地として良質秋田スギを供給してきた林業・林産業の盛んな地域である。この中で北秋田森林組合は、平成10年4月に鷹巣町、合川町、上小阿仁村の3森林組合が新たな経営基盤と自己資本の充実を図る為合併して設立した森林組合である。

3町村の概要は、総面積69,557haの81%が森林で、人工が35,000人弱の純山村地帯で高齢化・過疎化の進行が著しい地域でもある。森林の57%が国有林であり、民有林24,111haのうち63%が人工林で、そのほと

んどがスギ林であり、かつ7割が7歳級以下の保育を必要とする林分で、これから生産される間伐・小径材の利用が課題となっている。

製材工場は17社で1工場当たり出力数は155kWと大きく、地場産のスギを製材し製材品は建築用が9割弱を占めている。製材工場で消費する木材は国有林材が多く、民有林材の利用は一般的に少ない。

2 事業内容等

(1) 事業の目的

昭和40年代に民有林の拡大造林が推進され、近年そこから生産される間伐・小径木の利用が課題となってきているが一般に間伐・小径木は粗悪で品質も悪く市場でも安い評価を受け、この利用法と高付加価値製品の開発と商品販売を目標に、生産基盤の充実と二次加工施設の整備、製品販売体制の確立を図る。

(2) 事業の内容

高性能林業機械を駆使した素材生産から製材、二次加工組立、販売を一体的に実施して、間伐・小径木から高付加価値製品を生産・販売している。このため、1級建築設計士を職員として採用し、5名からなる設計室を設置して小木工品からエクステリア、遊具施設、ログハウス、一般住宅等の製品設計を行い、直営による施工も含め加工組立を行っており、木材を使用したあらゆる注文に対応している。

組合の年間事業量は、素材が丸太・立木の買取生産販売、請負生産等合計22,000m³を取扱い、造林・保育事業は1,500ha作業道開設3,400m、加工事業は丸棒10万7,000本、杭9万本、製材品500m³、内壁材12,000枚、プレカットログハウス・住宅等89棟、ブランコ、犬小屋等の小木工品8,000台を生産し、販売会社を通じて、ホームセンター・DIYショップや代理店、遊具メーカー、及び直営等で販売している。

3 施設の整備状況

事務所	1棟 256㎡ (H8自力)
プレカット工場	1棟 2,054㎡ (H8自力)
製材工場	1棟 616㎡ (H8自力)
杭工場	1棟 148㎡ (H8自力)
防腐工場	1棟 168㎡ (H2自力)
製品保管庫	1棟 284㎡ (H8自力)
工場・土場敷地	33,600㎡

・加工施設

製材機械一式	(S63自力)
丸棒施設一式	(S59林構)
杭加工機一式	(S57林構)
建築加工施設	(S60～自力)
製材加工施設	(H8自力)
モルダ―乾燥機	(H5自力)

・林業機械車両等

輸送車両	17台
林内作業者	5
バックホー	1
ブルドーザー	2
集材機	7
タワーヤーダー	1
グラップルソー	1
グラップル	3
フォークローダー	4

4 事業の実績

部門別事業収入 (単位：千円)

種別	平成7年度		平成8年度		平成9年度	
	計画	実績	計画	実績	計画	実績
指導部門	6661,158	667	782	7811,000		
	397,070	461,787	415,300	524,406	474,000	481,307
販	112,1	154,0	114,0	127,1	131,0	167,1

売加工品売上 部門	00	69	00	20	00	97
加工工事高	100,0	137,1	106,0	170,3	137,5	105,4
その他林産 収入	184,9 70	176,6 52	194,9 00	226,9 36	204,9 00	208,6 89
購買部門	7,790	6,835	7,832	12,17 9	10,34 3	6,632
利用部門	114,4 80	117,5 31	114,1 80	116,8 43	128,6 20	146,7 18
金融部門	5,241	5,350	4,353	4,274	3,910	3,949
総収入	525,2 47	592,6 61	542,3 32	658,4 84	617,6 54	639,6 06

5 事業の成果

森林組合の広域合併による経営基盤整備と自己資本の充実を図り、素材生産の強化と、間伐・小径木を利用した二次加工製品の生産拡大と人材育成をモットーに組合事業を展開している。

1. 素材生産事業は高性能林業機械を導入し、機械化により生産性の向上と事業の低コスト化を実現している。
2. 昭和57年に杭加工施設、59年に丸棒加工施設を導入し間伐・小径木等の加工部門に進出して杭から小木工品、ログハウス等の製品開発を行った。
更に加工施設の整備を図るため、60年から建設用加工機械、製材機械、防腐加工施設、モルダーク乾燥機等の導入を図り、平成8年には組合苗畑跡に事務所と工場を移転配置して二次加工施設の整備充実を図っている。加工部門への投資額は4億円を超え、これに高性能林業機械等素材生産機械を含めた総投資額は5億5,300万円と、いずれもほとんどを自力で導入している。
3. 製品の原材料はスギが主体であるが、使用に応じて樹種を選ばず、金物、石材、コンクリート等他材料と木材の複合的利用など、平成4年に設計部を創設し、あらゆる注文にも応じる設計、加工組立体制が確立されている。
4. 販売は、組合職員が自ら営業マンと称するように活発な営業活動を行っている。営業の拠点として東京に事務所を設置して職員を派遣してきたが、現在は木製品販売会社の(株)シンリンを設立して、全国のホームセンターDIYショップ等2,400店の全国ネットの流通販売体制を確立している。
この他、公園、遊具施設は代理店を通じて関東以北の都県へ、東北を拠点とした遊具メーカーへ、ログハウス、一般住宅はプレカット加工して直営施工により県内・県外へ、杭等の土木資材は県内へ直販と製品の種類に応じた販売網を確立している。
5. 若い社員を積極的に採用し、山元・工場での現場生産・加工作業からCADを駆使する設計、営業にも幅広く使用して新製品の開発設計や機械設計、ニーズの情報収集等も行い、過疎化の著しい地域の活性化と山を守り林業を推進する森林組合事業中心的役割を担っている。
また、需要増に応じて協力会社、シルバー人材センター、福祉更正施設等へ加工委託するなど、地域の雇用の場の提供と産業の活性化に貢献している。

6 今後の取り組み

森林組合の広域合併により体質が強化され素材生産体制はより整備・充実が図られたが、今後増大する間伐・小径木の利用には消費者ニーズに応じた一層の製品開発が求められており。これに対してコンクリートや鉄鋼メーカー等異業種企業と共同による木材との複合製品の開発を進め新分野への木製品の利用をはかっている。特に土木資材や道路用、河川用の景観商品は木製品の利用など今後とも需要の増加が見込まれ、地域の協力企業や関連企業等との連携を強化して新たな需要開拓を進めようとしている。

